

1. 評価報告概要表

作成日平成19年9月26日

【評価実施概要】

事業所番号	1070500622
法人名	特定非営利活動法人 ひまわり
事業所名	グループホームひまわりの家
所在地	群馬県太田市新井町544-1 (電話) 0276-45-5737

評価機関名	特定非営利活動法人 群馬社会福祉評価機構
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12
訪問調査日	平成19年9月26日

【情報提供票より】(19年8月31日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成14年4月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	8 人
職員数	10 人	常勤	3 人, 非常勤 7 人, 常勤換算 7.5人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り		
	3階建ての,	1階 ~	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	水道光熱費 通院介助費
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 100,000	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	400 円	昼食 400 円
	夕食	400 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(8月31日現在)

利用者人数	8 名	男性	1 名	女性	7 名
要介護1	2 名	要介護2	3 名		
要介護3	3 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83 歳	最低	73 歳	最高	91 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	竹内医院・永倉歯科医院
---------	-------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

自宅を改造して建てたホームのため各居室と共用空間等は狭いが、生活感を感じる。玄関は外階段を上った2階で、玄関の回りに花の鉢植えが並び、利用者が水やりをするなど手入れがされており、ベンチが置かれ休めるよう工夫されている。1日1回は戸外に出るように支援をしており、2階の玄関から1階の居室までの階段の上り下りが毎日の日課となり、下肢筋力低下の予防にもなっている。利用者が飼っている猫が、ここでのアニマルセラピーの存在になっている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回課題の相談・苦情窓口についての周知は、重要事項説明書に記載し利用者や利用者家族等に説明している。またヒヤリハットの記載を始めている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員会議や朝のミーティング等で、自己評価及び外部評価の意義とねらいについて話し合い、改善に向けて取組んでいる。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>3ヶ月に1回、運営推進会議を開催している。会議で取り上げるテーマを毎回決めて、参加メンバーもそれに即した人に参加してもらうことにより、少しずつ運営推進会議の役割やグループホームのことも知っていただく場となっている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>玄関に、意見箱を設置している。家族等の来訪時には、世間話をしながら希望や意見等を聞くように努め、何でも言ってもらえるような雰囲気づくりに留意している。また、外部の苦情等申立先を、重要事項説明書に記載し説明している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>毎日の散歩で、近隣の人と顔見知りになっている。また、近くの幼稚園の行事への参加、神社での清掃活動等、地域の人々との関係が密になるよう努力している。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開所時より理念の中の1つに「地域に目を向け開かれたホームを目指します。」という文言があり、地域の中でその人らしく生活をするを支えるケアを目指している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	共用スペースに理念をかかげてあり、毎日の朝の申し送りで読み上げて意識づけをしている。理念に基づき、家庭的な雰囲気の中で利用者との会話を密にし、利用者を尊重し自立に向けた支援に日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	老人保健施設から納涼祭の招待をうけたり、近くの幼稚園の行事への参加、近くの神社のお祭りに出かけたりと、地元の人々と交流することに努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義とねらいについて、朝の申し送り時又は連絡ノートを利用して回覧し、全職員が理解している。また職員会議では評価の意義とねらいについて話し合い、改善に向けて取り組んでいる。職員は、外部評価が仕事の励みにもなり、日常的なケアが客観的にみられるようになると積極的に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回、運営推進会議で取り上げるテーマを決めて、それに沿った人に参加してもらっている。テーマが地域の催事については、地域住民、組長、その催事の責任者等が参加している。参加メンバーは、固定ではなくて、多くの人に参加していただくことで啓発になると考えている。運営推進会議で出された意見は、職員会議で取り上げ検討している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議に出席依頼をしているが、担当者は市のスタンスが固まっていないということで出席していない。グループホーム連絡協議会からも、市への働きかけをしてもらっている。	○	今後もあらゆる機会を利用して、日頃の取り組み等をお知らせしていく等市への働きかけを行なうことを期待する。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問は、週2回・2週間に1回・定期受診時等さまざまである。訪問時に、心身の状況や暮らしぶりを家族に報告している。また、「ひまわり元気くらぶ通信」を発行して写真入りで日頃の様子をお伝えしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置している。来訪時には、世間話をしながら家族からの希望や意見等を聞くように努め、何でも言ってもらえるような雰囲気づくりに留意している。また、外部の苦情等申立先を、重要事項説明書に記載し説明している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開所から1年くらいは職員の離職率が高かったが、今は利用者にとって馴染みの職員が継続的に支える体制となっている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日常的に学ぶことを推進し、月1回の月例職員会議の勉強会で、パートの職員も含めた全職員で、認知症の理解・サービスの向上・ヒヤリハット等毎回テーマを決めて共通理解を深めるようにしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会の交換研修や他グループホームへの見学、同業者との交流で、サービスの質の向上を目指している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に入院している人や老人保健施設に入所している人には、職員が面会しその人の生活習慣や好みなどの情報を得ている。また、在宅者には家族と一緒にホームを見学してもらい、お茶をのんで過ごしてもらい雰囲気を確認してもらっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食事作り・縫い物・居室の掃除等で得意なことやできることは職員と一緒にいき、そのなかで「不安」「喜び」「楽しみ」などの利用者の思いを共感している。利用者から、生活の技や生活文化の大事さを教えてもらっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いを重視し、花に水をやりたい、お茶を立てたい、週刊誌をじっくり読みたい、買い物にいきたい等さまざまな意向を汲み取っている。また飼っていた猫と離れられず、猫をいっしょに連れてきた利用者もいる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	一人ひとりの利用者の生活歴やライフスタイルを考慮し、また日常生活を観察し個性や価値観等を把握して、課題やケアの方向性を、利用者や家族・担当職員と話をしながら介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月に1回職員会議で、次の月に計画見直し対象の利用者を中心に検討し、家族や利用者の要望を取り入れ見直しを行なっている。状態が変化の際は、期間内であっても検討見直しを行なっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院は、家族が不可能な時には、職員が代行している。	○	
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族が希望するかかりつけ医となっている。通院は、基本的には家族同行の受診となっているが、不可能な時は職員が代行している。受診時は、連絡票で家族等に伝えている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時は終末に対する対応指針を定める心の余裕がないため、1年位して話し合いを行なっている。	○	早期に利用者や家族と対応のあり方や方針等について話し合いをもち、この後も継続して繰り返し話し合いを行い、関係者がひとつの方針を共有していくことを期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	居室の小窓に目隠しをするなどプライバシーの保護に配慮しているが、トイレのカーテンが簡単に開いてしまう。職員は、利用者を敬う意識をもち敬語を使い言葉かけをしている。	○	トイレが2ヶ所あるが、それぞれカーテンとアコーディオンカーテンで簡単に開いてしまうため、安心してトイレを利用できるような改善を期待する。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事・散歩・レクリエーション等は、時間を決めて行っている。それ以外は利用者のペースに合わせて生活している。外出や買い物等は、一人ひとりの状態や思いに配慮しながら柔軟に対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	写真入りの献立メニューを作成したり、メニューを毎日ホワイトボードに書いたり、利用者が食事を楽しめるように工夫している。食事の準備や片づけは、利用者の能力に応じ一緒に行なっている。しかし、職員は見守りとして一緒にいるが食事を共にしていない。	○	食堂は狭いので全職員でなくても、見守りとして一緒にいるだけではなく、共に食卓を囲み食事をする取り組みを期待する。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日は、月・火・木・金の4日間としている。一人に対しては、週2回の入浴となっている。夏場は、曜日を決めないで随時シャワーを使用している。	○	利用者のそれまでの生活習慣や希望に応じて、入浴が可能となるような勤務体制や工夫を期待する。
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりにしたいことを伺い、できることを検討して、おしぼりたたみや洗濯物たたみ等の役割を見つけて手伝ってもらっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	雨や風等天候不良日以外は、一日に一度は戸外にできるように支援している。神社や公園まで散歩に行ったり、近くのスーパーへの食材の買いだしに車で出かけたりにしている。またお墓参りなど家族等と行けない場合には、一緒に行ったりしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は、鍵をかけないで見守っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、火災と地震に対する避難訓練を消防署の協力を得て行なっているため、利用者が避難できる方法を身につけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取表に摂取量を記入し、摂取量の少ない利用者には好みの物を提供している。また野菜の嫌いな利用者には、野菜ジュースにするなど代替食をすすめている。また水分摂取量の少ない利用者には、こまめに飲んでもらうよう注意している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅を改造して造ったため生活感がある。また玄関には、鉢植えがあり季節感を感じる。しかし全体的に、特に台所とトイレが狭い。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に使っていた物や使い慣れた物を持ってきて頂いている。		